

第145回京都市中小企業経営動向実態調査の結果概要について

京都市では、市内の中小企業者の経営実態や経営動向を把握するため、四半期ごとにアンケート調査を実施しています。このたび、第145回(令和4年度第3四半期)調査を実施し、その結果をまとめましたので、お知らせします。

また、今回は付帯調査として、令和4年の企業経営実績と令和5年の見通しについて調査しましたので、その結果の概要も併せてお知らせします。

<市内中小企業の景況について(別紙1参照)>

1 今期(令和4年10月~12月期)実績

- ・ 今期の企業景気DIは、全産業で+2.6ポイント(53.5→56.1)。非製造業を中心にコロナ禍からの回復等の前向きな意見が見られ、全体のDIは上昇。基準値の50ポイントを、3期連続で上回る結果となった。
- ・ 業種別では、製造業で▲1.6ポイント(56.1→54.5)。非製造業は+6.3ポイント(51.2→57.5)。
- ・ 製造業については、「西陣」「染色」「窯業」「その他の製造」の4業種でDIが上昇(他4業種は低下)。非製造業では、「卸売」「小売」「飲食・宿泊」の3業種でDIが上昇した(他3業種は低下)。
- ・ また、観光関連^{*}については、コロナ禍の影響の緩和や各種政策の効果による前向きな意見が見られ、+7.3ポイント(75.5→82.8)と上昇。基準値の50ポイントを引き続き上回る結果となっている。

(1) 製造業(DI:54.5(前回調査比▲1.6ポイント))

- DI上昇:4業種(西陣、染色、窯業、その他の製造)
- DI低下:4業種(印刷、化学、金属、機械)

【事業者の声】 「観光客が増加し、受注が増加している」(上京区/その他の製造)
「納期待ちの仕入れが秋以降に一括納品。工場フル稼働により売上上昇」(南区/機械)
「肥料価格の上昇により売上は上昇したが、仕入単価も上昇し利益は増えない」(伏見区/化学)
「資材価格の高騰により利益が出にくい状況となっている」(西京区/印刷)

(2) 非製造業(DI:57.5(前回調査比+6.3ポイント))

- DI上昇:3業種(卸売、小売、飲食・宿泊)
- DI低下:3業種(情報通信、サービス、建設)

【事業者の声】 「コロナ禍の行動制限がなくなり、修学旅行生にも戻りが見られ売上増加」(右京区/サービス)
「全国旅行支援と円安効果により観光客(インバウンドを含む)が増加」(中京区/飲食・宿泊)
「原材料や包装資材価格、光熱費の高騰により利益が出ない」(伏見区/卸売)
「材料不足が理由で工事遅延、工程変更が目立っている」(山科区/建設)

<参考> 観光関連^{*}(DI:82.8(前回調査比+7.3ポイント))

【事業者の声】 「国内旅行客向け旅行クーポンのおかげで観光客が増え、売上も増加」(東山区/その他の製造)
「コロナ禍が落ち着きつつあり、広告関連も徐々に戻りつつある」(下京区/サービス)
「コロナの影響は多少あったが、修学旅行生が戻ってきたため売上上昇」(左京区/飲食・宿泊)

※ 観光関連とは…観光客を対象とする製品を作る製造業、商品を扱う卸売業、小売業及びサービスを提供するサービス業のうち、観光関連の売上高が、総売上高の25%以上を占める事業者を指す。

2 来期（令和5年1月～3月期）見通し

- ・ 来期の見通しについて、全産業の企業景気DIは、今期実績と比較して▲10.9ポイント（56.1→45.2）。仕入れ難やコスト高の影響を懸念する声が多くみられ、基準値の50ポイントを下回る結果となった。
- ・ 業種別では、製造業が▲8.9ポイント（54.5→45.6）、非製造業が▲12.6ポイント（57.5→44.9）と、いずれも基準値の50ポイントを下回っている。
- ・ 製造業のDIについては、「西陣」（増減なし）を除く全ての業種で低下。非製造業のDIについては、「情報通信」のみ上昇し、それ以外の業種は全て低下した。
- ・ 観光関連も、一部で前向きな意見がみられたものの、全体としては▲36.4ポイント（82.8→46.4）と低下し、基準値割れとなっている。

(1) 製造業（DI：45.6（今期実績比▲8.9ポイント）／7業種が低下を見込む）

- 【事業者の声】 「引き続き仕入原価の上昇が見込まれ、業績回復にはまだ厳しい」（南区／窯業）
「購入した部材が納品されず、ラインが止まっている」（南区／金属）
「原材料価格に上げ止まりがみられ、販売単価への転嫁の進展に期待」（中京区／化学）
「新規需要開拓の取組を進め、徐々に効果が表れている」（伏見区／その他の製造）

(2) 非製造業（DI：44.9（今期実績比▲12.6ポイント）／1業種が上昇、5業種が低下を見込む）

- 【事業者の声】 「ウィズコロナで売上は多少回復するも、収益悪化が見込まれる」（下京区／サービス）
「物価上昇や資材不足の状況は改善されない見込み」（中京区／建設）
「全国旅行支援の継続次第。継続されなければ反動が来る」（右京区／飲食・宿泊）

<参考> 観光関連（DI：46.4（今期実績比▲36.4ポイント））

- 【事業者の声】 「コロナ患者数は減少せず、商品も値上げに踏み切らざるを得ず不安」（東山区／小売）
「引き続き外国人観光客が増加し、活性化が見込まれる」（東山区／飲食・宿泊）

3 当面の経営戦略

- ・ 当面の経営戦略として、「営業力の強化（61.4%）」を挙げる企業が、前回調査に引き続いて最も大きな割合を占めている（割合は前期から減少（▲0.3ポイント））。
- ・ 順位は次いで「人材確保・育成（58.2%）」、「生産・経営の合理化（34.8%）」となっており、前回調査から順位に変動はなかった。

4 経営上の不安要素

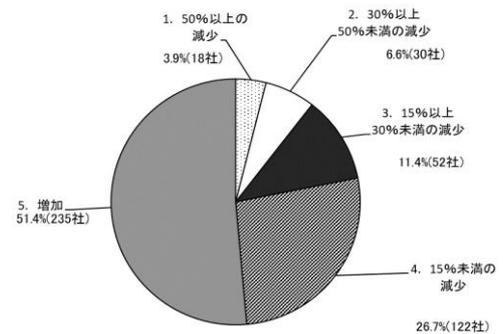
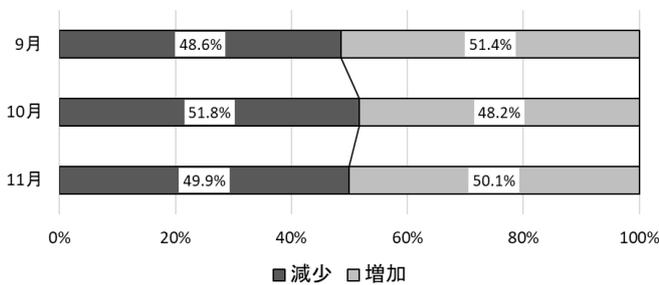
- ・ 経営上の不安要素は、「仕入値上り要請（43.3%）」が10四半期連続で割合が増加（+1.1ポイント）し、最も高い割合を占めている。「原材料価格上昇（40.0%）」も引き続き高順位に位置しており、企業の経営上の不安要素として、物価高に起因するものが1位、2位を占める結果となっている。
- ・ 「為替動向（10.0%）」と回答した企業は全体の1割で、▲1.2ポイントと減少している。
- ・ 「金利上昇（7.7%）」は、全体に占める割合は1割未満ではあるが、前回から+4.1ポイント増加。また、「人手不足（27.8%）」についても、+6.0ポイント増加している。

5 新型コロナウイルス感染症による売上の減少（令和4年9月～令和4年11月）

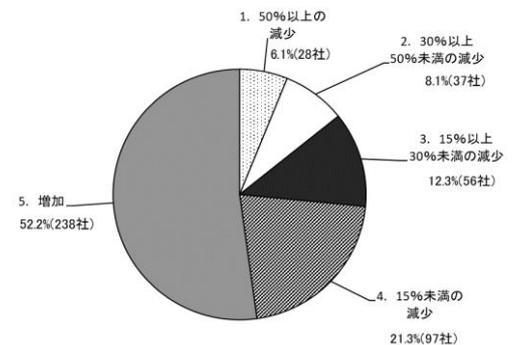
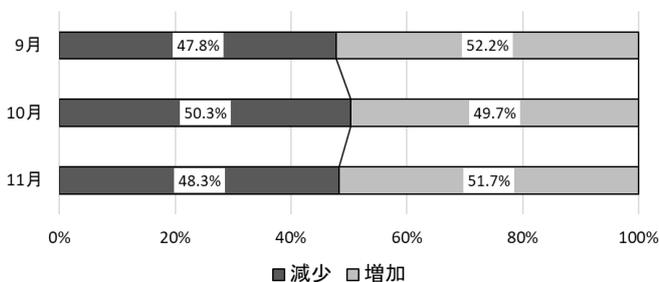
- ・ 企業の直近の売上（令和4年9月、10月、11月）について、コロナ前の令和元（2019）年の同月と比較した場合、約7割の企業が、売上が減少していると回答した。令和2（2020）年及び令和3（2021）年の同月との比較では、売上が減少したと回答した企業は約5割と、コロナ前と比較した場合に比べて割合は縮小。約半数の企業は、売上が増加している（下図参照）。
- ・ 令和2年及び令和3年との比較で売上が減少している企業のうち、売上の減少率としては「15%未満の減少」の割合が最も多かった。減少率が「50%以上」及び「30%以上50%未満」と回答した企業は、いずれも1割未満という結果になった。
- ・ コロナ前の令和元年との比較で売上が減少している企業のうち、売上の減少率としては「15%未満の減少」と回答した企業の割合が最も多く、「50%以上」と回答した企業の割合は1割未満という結果になっている。

<令和3年、令和2年及び令和元年との売上比較に係る割合>

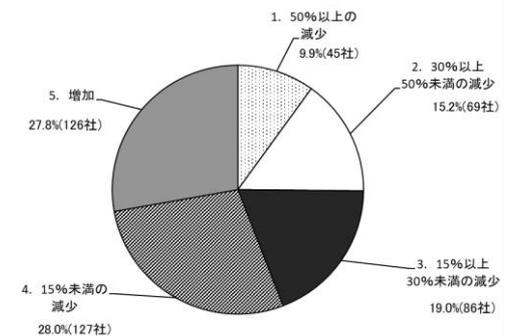
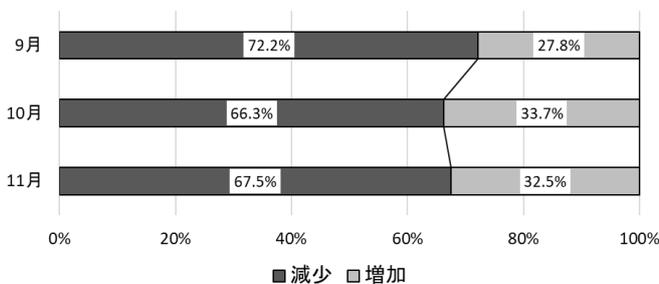
- ・ 令和3年との比較（円グラフは9月分）



- ・ 令和2年との比較（円グラフは9月分）



- ・ 令和元年との比較（円グラフは9月分）



(参考) 1 調査対象企業数 800 社。うち 485 社が回答（回答率 60.6%）

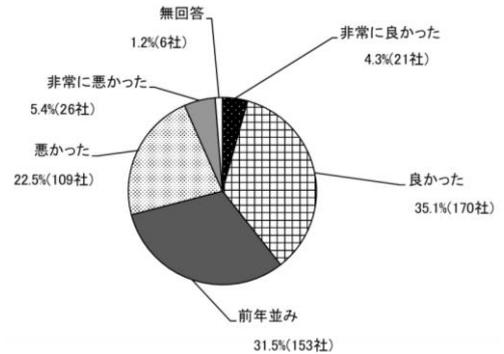
2

$$\text{企業景気DI} = \frac{(\text{上昇、増加と回答した企業割合}) - (\text{低下、減少と回答した企業割合})}{2} + 50$$

<付帯調査：令和4年の企業経営実績と令和5年の業績見通しについて（別紙2参照）>

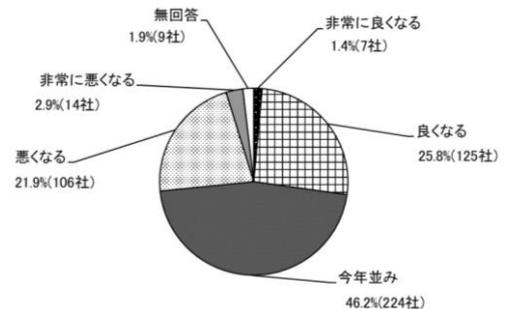
A 令和4年の業績は、 令和3年と比較していかがでしたか？

- 令和4年の企業経営実績について、令和3年企業経営実績との比較で尋ねたところ、「良かった（35.1%）」が最も多く、次いで「前年並み（31.5%）」、「悪かった（22.5%）」と続いた。



B 令和5年の業績見通しは、 令和4年と比較していかがですか？

- 令和5年の業績見通しについて、令和4年実績との比較で尋ねたところ、「今年並み（46.2%）」が最も多く、次いで「良くなる（25.8%）」、「悪くなる（21.9%）」と続いた。



C 令和4年の業績に影響を与えた要因・令和5年の業績に影響を与えると予想される要因は？

(1) 令和4年の業績に影響を与えたプラス要因

- 令和4年の業績に影響を与えたプラス要因については尋ねたところ、「営業努力（60.9%）」が最も多く、以下「国内景気（19.5%）」、「新商品・新技術の開発（18.5%）」、「設備投資（13.2%）」、「新事業の展開（11.3%）」と続いた。

(2) 令和4年の業績に影響を与えたマイナス要因

- 令和4年の業績に影響を与えたマイナス要因については「新型コロナウイルス感染症の影響（44.0%）」が最も多い結果となったが、前回調査との比較では、割合は▲22.7ポイントとなっている。
- 順位は次いで、「その他原材料の高騰（31.7%）」、「原油価格の高騰（25.7%）」、「国内景気（21.6%）」、「物価動向（17.0%）」と続いた。

(3) 令和5年の業績見通しに影響を与えると予想されるプラス要因

- 令和5年の業績見通しに影響を与えると予想されるプラス要因を尋ねたところ、「営業努力（57.5%）」が最も多く、以下「国内景気（20.7%）」、「新商品・新技術の開発（20.2%）」、「新事業の展開（18.1%）」、「設備投資（10.1%）」と続いた。

(4) 令和5年の業績見通しに影響を与えると予想されるマイナス要因

- 令和5年の業績見通しに影響を与えると予想されるマイナス要因については、「その他原材料の高騰（35.8%）」が最も多く、前回調査で最も多い割合を占めた「新型コロナウイルス感染症の影響」を上回る結果となった。
- 次いで「新型コロナウイルス感染症の影響（32.9%）」、「原油価格の高騰（23.9%）」、「国内景気（21.6%）」、「物価動向（17.8%）」と続いた。

D 令和5年の業績に影響を与える要因のうち、最も影響の大きい要因は？

- 令和5年の業績に最も大きい影響を与える要因について、プラス要因として選択されたのは「営業努力 (24.8%)」が最も多かった。
- 令和5年の業績に最も大きい影響を与える要因について、マイナス要因として選択されたのは「その他原材料の高騰 (21.7%)」が最も多かった。
- それぞれの要因を選択した理由として、次のような意見が寄せられている。

影響	要因	左記要因を選んだ理由
プラス	営業努力	今まで以上に取引先に営業し、提案していくことで受注を広げる 他社との差別化を図り、プロ集団による強みを生かす営業を行う
	コロナの影響	コロナの影響が緩和され、イベントなどが徐々に回復している
	新事業の展開	アンテナショップを開業する
	新商品・新技術の開発	他社で扱っていない商品展開とその売り場の拡張を行う
マイナス	その他原材料の高騰	仕入高が上がると価格に転嫁されるので、総じて売れなくなる
		鋼材価格が高騰し、受注及び利益に大きくマイナス影響を与える
		度重なる原材料の高騰を、商品価格に転嫁することが難しい
	コロナの影響	建設現場の延期や縮小、社員等の感染による生産性の低下 コロナの状況により出入国制限が課されると売上に影響が出る
国内景気	国内景気が回復しないと業績の見通しつかない	

E 賃金水準について

(1) 令和4年の賃金水準について

- 令和4年の賃金水準については、「引き上げた (62.7%)」が最多で、次点は「前年から据置き (34.9%)」となった。「引き下げた」企業は2.3%にとどまった。
- 賃金水準の引上げ方法として「ベースアップ (32.9%)」を選択した企業が最も多く、次点は「ベースアップ+賞与・一時金の増額 (30.5%)」という結果となった。

(2) 令和5年の賃金水準について

- 令和5年の賃金水準について、「引上げ予定 (55.2%)」が最多となったが、令和4年度の賃金水準（実績）と比較して、▲7.5ポイント低い結果となった。
- なお、「引下げ予定」と回答した企業は、1.7%にとどまった。
- 令和5年に予定している賃金水準の引上げ方法については、「ベースアップ (37.4%)」が最多で、次点は「その他の賃上げ (定期昇給等) 実施 (27.6%)」となっている。

F 今後、貴社で拡充・強化又は削減・縮小する予定の分野や部門は？

- 今後、拡充・強化する部門としては「営業部門 (38.7%)」が最も高く、次いで「企画・開発部門 (23.3%)」、「製造部門 (23.3%)」が同率で続いた。
- 一方、削減・縮小する部門としては「特になし (73.4%)」が圧倒的に多く、以下「事務部門 (12.0%)」、「財務部門 (5.8%)」と続いた。

G 令和5年に向けた、貴社の経営全般における独自の取組や工夫は？

- 多くの企業から、経営全体における独自の取組や創意工夫について、多くの意見が寄せられた（詳細は別紙2に掲載）。